

空港近接地に物流施設、27年完成へ

■シカゴ・ロックフォード空港

米シカゴ・ロックフォード国際空港（RFD）はこのほど、空港から約1.6キロの場所で、米不動産開発会社ヒルウッドによる物流施設の建設が始まったと発表した。延べ床面積は約3万1100平方メートルで、2027年の完成を予定する。貨物取扱量の拡大に対応し、空港周辺の物流施設を増強する。

新施設は、物流団地「ロックフォード・ロジスティクス・パーク20」の第

1期として整備する。航空貨物、物流、配送、製品の加工・組み立てなどに対応し、1社単独での利用と複数テナントによる利用の双方を想定する。

同空港のザカリー・オークリー・エグゼクティブダイレクターは、「着工は、RFD周辺で投資が続き、ロックフォード地域で物流施設への需要が高まっていることを示すものだ」とコメント。空港の貨物インフラや交通利便性を活用する企業に、新たな事業

スペースを提供するとした。

RFDは、貨物機の総着陸重量で全米上位20空港に入り、1日約85便の貨物便を取り扱う。24時間運用で、滑走路と駐機場の間の移動時間は平均約5分と短く、迅速な貨物オペレーションにつなげている。空港内に米税関・国境警備局（CBP）の手続き機能を備えるほか、航空会社などによる自社ハンドリングも可能としている。